

エムエスピーの履歴書

④

水谷政司

あの日本電気にヒゲを生やした課長がいるらしい、びっくりした記憶があります。

歴史アーカイブス

会社員においてヒゲは禁止という概念が1970年代にはありました。この課長は米国帰りとのことで大変ヒゲが似合っていたことを覚えていません。

ところでヒゲの種類や形、何種類ご存じでしょうか？

口ヒゲがマスタッシュ、あご先のヒゲがゴウテイ、頬からあごに生えるヒゲがベアードと言います。

エムエスピーの社員がヒゲを生やすようになった経緯を説明しましょう。

創業時の社員は数名でしたが、この小さな会社を印象付けるにはどうしたら良いのか？創業時のメンバーから提案があったことがきっかけでした。創業時は、初回のアーカ

会社を目立たせるためには何が必要か

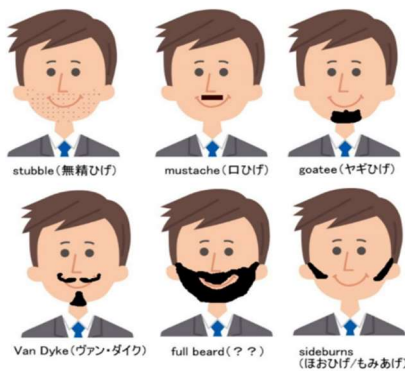
社員はヒゲが必要、髭のない人は入れない？

イブスにて説明した通り米国からパソコン関連商品を輸入販売しておりました。何故米国輸入のチャネルが開拓できたかというと、社員に米国人がいたからです。

ドマークで、頭は光っていましたが、ヒゲがかなり印象的な人でした。ある時、「和製シヨーンコネリー」を標榜していた日本人社員から「会社を印象付けるためにも米国人社員と同様にヒゲを生やしたらどうか」と提案がありました。反対する社員がおりませんでしたので全員生やすことといたしました。

私の場合、今でこそ白髪口のヒゲとなつてしまいましたが、当初は黒い口ヒゲであったことを申し置きしておきます。

社員の大半がヒゲを生やすことでヒゲのエムエ



スピーは定着したものの事務所に全員が集まると其れは其れは異様な光景であったことを覚えていきます。

当時は米国製の品物を輸入し、国内販売しておりましたので輸入のための米国出張では日本人の童

顔を隠すのに最適で、アルコールも年齢確認されずに問題なくずっと飲めました。

国内の展示会などに出店した折には説明員が皆ヒゲのため、来場のお客様からはギョツとされていたことなど記憶がよみがえりますが、ヒゲのおかげで会社の知名度が上がったことも事実です。

この当時の取扱商品に關しては別の機会にまたご紹介することといたします。

当時、南青山の骨董通りの小原流会館にあった自販連本部様への訪問では当然のこと皆様からびっくりされカウンター越しに、「ヒゲは訪問禁止ですよ」と笑いながら責任者の理事職に言われたことを今でも懐かしく思い出します。

(エムエスピー相談役)